

第 **7** 位

21854 P

前回 8 位

1 位 UP

皇帝が送り出した最高傑作

# トウカイテイオー

名手も唸った大物が  
苦境を乗り越え起こした奇跡

トウカイテイオーは無敗の三冠馬シンボリルドルフの息子である。皇帝ルドルフは当時日本競馬史上最強馬と目されており、その初年度産駒から大物が現れたのだ。帝王と名づけられた馬は、面長の顔に細い流星があり、長い前髪を風になびかせて走る。その大きなストライドとすべらかな身

のこなしに誰もが魅入られた。栗東の松元省一調教師は、最初からダービーを意識したローテーションを組んだ。

トウカイテイオーは安田隆行騎手を背に、初重賞挑戦となった皐月賞を難なく勝つと、5戦5勝でダービーに進み楽勝。父と同じ無敗のダービー馬となったのだった。しかしその3日後、骨折が判明し、三冠は夢に終わった。復帰は翌春の大阪杯。追い切りで岡部幸雄騎手は「地の果てまで行ける」

と絶賛し楽勝したが、天皇賞(春)ではメジロマックインの5着に敗れ初黒星。しかも再び骨折を発症する。

秋にはぶっつけて天皇賞(秋)に出走するも7着と惨敗。ジャパnCでは外国の強豪を前に5番人気にとどまったが、最後の直線でナチュラルリズムと激しく競り合い、クビ差交わして父仔制覇を達成した。ゴール前はスタンドが一つとなってテイオーの名を力の限り叫び、ファンは日本馬の勝利に酔った。

しかし続く有馬記念で惨敗すると、翌年三度目の骨折を発症してしまう。三度目の復帰は1年ぶりの有馬記念だった。鞍上は田原成貴騎手で4番人気。直線、抜け出した本命ビワハヤヒデにトウカイテイオーが迫る。ゴール前は完全な二頭の一騎討ちとなった。そして半馬身差でトウカイテイオーに軍配が上がる。じつに364日ぶりの「奇跡の復活」は、ファンに驚きと深い感動を与えた。のちにビワハヤヒデ騎乗の岡部騎手は「僕は完璧なレースをしたよ。けれど後ろからやって来た馬に気づいたとき『やっぱりアイツか』と思った」と語っている。

不屈の闘志で三度蘇った「奇跡の名馬」。手垢にまみれた言葉だが、その真実の物語は唯一無二で不滅である。

## TOKAI TEIO's

### Impressive Scenes

S.Okada



#### 父に続く無敗での二冠達成

##### 1991年 日本ダービー(GI)

5戦無敗で皐月賞制覇。周囲の期待を背負って挑んだ日本ダービーも独壇場。父に続く無敗でのダービー制覇、そして二冠を達成した

S.Okada



#### 海外の強豪相手に意地を見せる

##### 1992年 ジャパnC(GI)

二度目の骨折明けとなった秋の天皇賞で敗北も「ジャパnC史上最高」と評された海外勢を相手に見事勝利。父に続くジャパnC制覇

S.Okada



#### 1年ぶりのレースで起こした奇跡

##### 1993年 有馬記念(GI)

前年の有馬記念でのアクシデント。そして三度目の骨折を経て約1年ぶりのレース。若き精鋭たちが揃う中、奇跡とも言える勝利を飾った

#### 年代別・性別ランキング

40~60代からの  
評価が高い

- 10代……15位
- 20代……14位
- 30代……12位
- 40代……8位
- 50代……5位
- 60代……8位
- 70代……12位
- 男性……7位
- 女性……10位

#### Voter's Voice

容姿も美しく、最高の名馬です(50代・男性) ●辛いときはいつもトウカイテイオーの奇跡の復活を見て元気をもらっています(10代・男性) ●姿も美しく、繋ぎが長く、ジャンピングシューズを履いたような走りが最高でした(60代・男性) ●トウカイテイオーの奇跡の復活は、困難にある人々をいつの時代も勇気づける(40代・女性) ●日本競馬史上最もドラマチックな名馬(70代以上・女性)

1988年4月20日生 牡 鹿毛  
父シンボリルドルフ  
母トウカイナチュラル(父ナイスダンサー)  
馬主/内村正則氏  
調教師/松元省一(栗東)  
生産牧場/長浜牧場  
通算成績/12戦9勝  
総取得賞金/6億2563万3500円  
主な勝ち鞍  
93有馬記念(GI)  
92ジャパnC(GI)  
91日本ダービー(GI)  
91皐月賞(GI)  
92大阪杯(GII)  
馬名の由来/冠名+帝王

